

「元気になろう」という 患者の意欲を引き出すための 「病院のキッチン空間」

キッチン空間を病院内に設けて、患者の「心」「体」「家計」を元気にします。

「心」→患者の家族や患者同士が、食事を通してコミュニケーションを深めます。

「体」→管理栄養士が常駐して、患者と家族が美味しい食事をつくって食べます。

「家計」→「心」と「体」が元気になり、早く病気を治すことが期待できます。

(A：団らんキッチン空間)



after

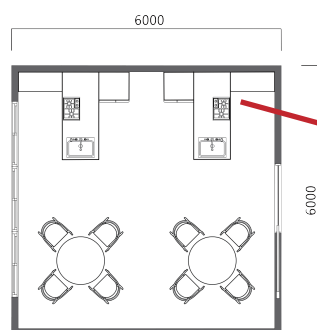
日常のキッチン空間を非日常の病院空間に持ち込みます

↓
キッチン空間では、患者の慣れない病院生活でのストレスを軽減します。例えば、

↓
新しい友人ができることで、「心」が元になります
(A. 患者同士のコミュニティ)

美味しい食事をつくって食べることで、
「体」が元になります (B. 家族のコミュニティ)

↓
キッチン空間で、患者の「心（コミュニケーション）」と「体（食事）」が元になり、早く病気を治して退院することで「家計（入院費用）」の負担が減り、家族も元になります
加えて、患者の早期退院は、診療報酬の仕組みから病院も元になります

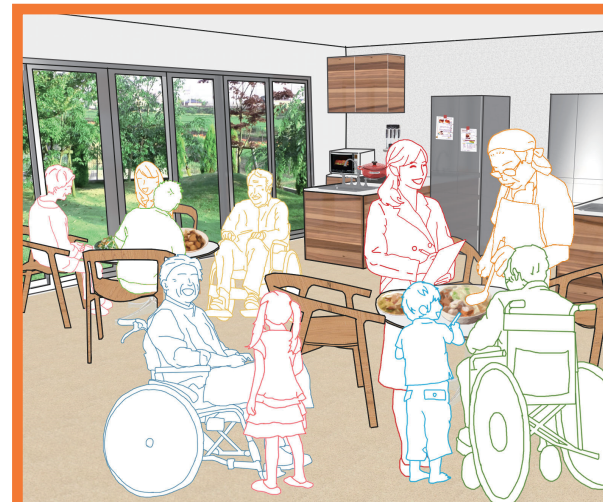


平面図

昇降式キッチンで
車いすでも使用できます
(H650～850)



A. 患者同士のコミュニティ



高齢者 A さんは、一人寂しい入院生活を送っていました。ある日のおやつ時間、キッチン空間の近くを通ると、B ちゃんがキッチン空間の中に招いてくれました。そこでは管理栄養士がおやつを配っていました。それから、A さんはキッチン空間を訪れるようになり、たくさんの入院患者さんたちと親しくなりました。

管理栄養士「今日は米粉のクッキーをつくりましたよ。」

B ちゃん「私が A さんに届けてくるね！」

高齢者 A「このクッキー美味しいね！誘ってくれてありがとうね！」

管理栄養士「また明日も来て下さいね。」

B. 家族のコミュニティ



例：ママ C さんが入院

C さんは、見舞いに来た家族とキッチン空間を訪れました。C さんは、久々に家族に料理を振るいました。家族が美味しそうに食べている姿を見て、C さんはとても嬉しくなりました。

子ども「ママの手料理が一番だね！」

C さん「ありがとう、喜んでくれて嬉しいわ。」

パパ「やっぱり、家族で食べると美味しいな。」

例：小学生 D 君が入院

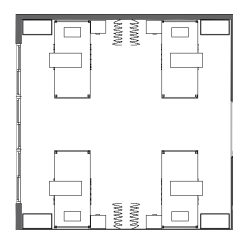
D 君は病院食が嫌いです。入院中はずっと、お母さんの料理を恋しく思っていました。そんな時、久々にお母さんの手料理をキッチン空間で食べて、D 君は元気を取り戻しました。

お母さん「いっぱい食べて元気になってね。」

D 君「僕もお手伝いするよ！」

管理栄養士「アレルギーの卵を使わないレシピを用意しましたよ。」

before



4 床室

〈病院の平面図〉



↑ キッチン空間を病院の4床室の空間に設けます

管理栄養士

ここでは、入院患者の食事管理や栄養指導を、食事をつくって食べながら「楽しく」行います。今まで以上に、管理栄養士が入院患者の身近な存在になり、仕事の幅も広がります。

